

# 国際協力の現場を語る

JICA(独立行政法人 国際協力機構)は開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持った人達を「JICA海外協力隊」として派遣しています。この人達は海外旅行などでの体験とは違った、海外協力隊ならではの様々な体験をしてくれています。赴任国で体験した、生活、文化、人々との触れ合い、苦労、喜び、伝えたいメッセージなどを熱く語っていただきます。

日 時: 毎月第3水曜日 14時40分～15時50分  
 会 場: JICA横浜 又は上大岡会場(コロナ禍時)、及びWeb会議(Zoom)併用  
 会 費: 無料 (どなたでも自由に参加できます)  
 主 催: NPO法人 シニアボランティア経験を活かす会  
 後 援: JICA横浜

(やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページ、または下記問い合わせ先に確認して下さい。)

問合せ先: 横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜3階 国際協力連絡室内  
 シニアボランティア経験を活かす会 水曜日  
 Fax : 045-663-3263 担当: 井坂敏之 (046-887-0286)  
 URL [https:// jicasvob.com](https://jicasvob.com) E-mail [info@jicasvob.com](mailto:info@jicasvob.com)



赴任国(講演者)	「タイトル」	講演概要
第189回 10月20日 (水) ナイジェリア (齋尾恭子)		<b>「西アフリカの作物と食、そしてひとびと」</b> 1994-2001年の6年間、ナイジェリアに本部のある国際熱帯農業研究所(IITA)の理事を務めました。そのIITAの農業開発での作物と食材、殊に大豆利用と豆腐製造について説明します。併せて他の西アフリカの作物と食に触れ、また、ナイジェリアのひとびと(特に女性)についても紹介します。アフリカの地で現地の為につくした日々の記録です。
第190回 11月17日 (水) タジキスタン (泉 安佐)		<b>「タジキスタンと日本語教育事情」</b> 2016年7月から翌年7月までの1年間、シニアの短期派遣でタジキスタンの日本語教育に携わりました。派遣前は名前も知らなかった国、タジキスタン。イスラム文化に則った人々の生活、慣習等には驚くことがたくさんありました。そして驚きの最たるものは日本語を熱心に学ぶ学生達の存在でした。今回はあまり知られていないタジキスタンとそこに住む人々、そこで日本語教育事情について皆さんにお伝えしたいと思います。
第191回 12月15日 (水) ペルー (松友正志)		<b>「ペルー派遣とコロナ禍による緊急帰国」</b> 配属先はペルー生産省革新技术課。首都リマにあり中小零細企業の品質管理生産性改善を指導しました。活動としてはペルー工業連盟、商工会議所などでの「カイゼン」活動紹介を予定していましたが。しかし派遣開始5ヶ月後ペルー政府から国家非常事態宣言が出され国家レベルのロックダウンとなりました。大変厳しい行動制限があり市民生活も大混乱していた中でJICAなど関係機関のご尽力により無事帰国出来た状況も含めた活動報告を致します。
第192回 1月19日 (水) オーストラリア ブルガリア アメリカ等 (二階堂幸弘)		<b>「途上国支援と国際文化交流」</b> 外務省勤務時代に勤務した国は6カ国。国内での異動は11回。出張した国は70カ国。いろいろなことをやりましたが、途上国支援と国際文化交流は思い出がたくさんあります。経済協力局で評価を担当したときはJICAと協力して外務省評価体制の抜本的見直しを行いました。日本に対する関心の高まりに応えるために日本文化紹介事業に力を入れました。これらの経験で学んだことをお話ししたいと思います。
第193回 2月16日 (水) エクアドル・コスタリカ・ブラジル (松村繁満)		<b>「異文化理解から国際協力(ラテンアメリカ)」</b> JICAシニアボランティアとしてラテンアメリカ3か国(エクアドル、コスタリカ、ブラジル)で活動してきました。これらの経験から学んだ「ラテンアメリカの文化・風習」と現地の人々と共生しながら活動していく上での心構えなどについて紹介します。